

紹 介

臨床技工プロ講座がめざす役割

佐 野 正 枝

明倫短期大学 歯科技工士学科

The Role of Technical Lectures for the Professionals

Masae Sano

Department of Dental Technology, Meirin College

明倫短期大学では2005年度から歯科技工士のキャリア開発のための「臨床技工プロ講座」を開講している。世界に亘していく歯科医療界の新戦力として果敢に挑戦する社会人歯科技工士が、キャリアアップを達成するように支援することが目的である。

本講座には臨床に結びつく技術分野に関する次の2コースが設置されている。最新の知識をベースにした咬合再建技工コースはコンプリートデンチャー特論、ワックスオクルージョン特論、キャストパーシャルデンチャー特論、生体情報を活かした臨床技工（デジタル画像の活用）、デンタルインプラント特論の5講座からなる。また、新しい可能性を開拓する顎顔面修復技工コースは顎顔面補綴技工ベーシックの1講座をもつ。

実務に役立つように座学よりは実習に重点を置き、2ヶ月間（4日間・土日曜日）で一つの講座をマスターする短期集中型の教育プログラムである。また、歯科技工士学科専攻科生体技工専攻が開講しているため、講座修了者には大学の単位認定証が授与される。

本講座の一番の魅力は、本学が任命する臨床教授が最新の知識や技術、豊富な臨床技工経験をEBMに基づいてまとめ、技術指導する点にある。最前線で活躍するプロフェッショナルの直接指導は単なる技術の習得でなく、発想力やプロ魂にも通じる示唆に富む内容であり、受講者一人ひとりの高いモチベーションにつながっている。その他、専門機材や

スタッフ面での歯科産業メーカーとの連携が本講座の円滑な運営に活かされている。

本学がこうしたキャリアアップに積極的に取り組んできたのはIT、ナノテクノロジー、バイオテクノロジーに象徴されるこれまでと全く異なるイノベーションやグローバル化が背景にある。さらに、加速度的に進む少子高齢化による社会保障制度、経済産業構造等への深刻な影響が、医療の制度や質、歯科技工士の教育や医療技術分野にも歪みを生じるに至ってきたからである。最近のプロ歯科技工士を目指す若手の不足、歯科技工士への志願者の減少も顕在化してきた背景もある。このような環境下では、専門能力のキャリアアップが不可欠であることは言うまでもない。しかし、歯科技工士にこうした時代の変化に的確に対応できる能力開発の機会や研修意欲を鼓舞する人材育成システムが提供できているだろうか。人材の開発は成果が出るまでかなりの時間がかかることを考えると、現状には危機感を持たざるを得ない。

今、歯科技工士には自らの専門性、技術レベル、価値観を維持、強化、発展させるための自己努力が求められている。彼らのニーズに合った能力開発の機会を提供することが、本学の役割を果たすことと考えている。

大学、専門学校等で基礎的専門教育を終えた後、国家資格を取得した歯科技工士は歯科技工所に就職し医療従事者としてのスタートをきることになり、

その後、臨床技工経験を重ねながら成長していく。このステージにおいてこそ必要とされる社会人歯科技工士のキャリア形成プロセスと、適切な能力認定制度を考案してきた。若手が目標や夢をもってキャリアアップに挑戦できる流れを提供することは、歯科専門学協会、教育機関、歯科産業界からなる教育分野の产学連携において可能となるであろう。このことから、認定を通じて歯科技工士養成のための基礎教育、臨床教育、生涯教育の質の向上と体系的な人材育成システム構築に少しでも役立ちたい。

今後の歯科医療界には、専門性とプロデュース能力を備えた歯科技工士がより求められるようになる。ラボの活力、競争力を強化するためにも、現場の歯科技工士のプロ意識を念頭においていた人材開発が不可欠であり、キャリアアップは経営戦略上も重要な要素ではないか。市場が求めるのは何か、そのた

めにどのような技術が必要かなど、社会のニーズを汲み上げる一方で、常に先導的な立場でより高いレベルの教育訓練を実施し、研修の必要性を喚起していくことも必要と考える。若い歯科技工士が大きな夢をもち続け、患者のQOLの向上に役立つ技術の可能性にチャレンジし、新しい技工技術の飛躍的な発展に寄与してほしい。

「働きながら学ぼう、専門を深めキャリアアップしよう」をキヤッチフレーズにスタートしたプロ講座は開講して3年になる。共に学び壁を乗り越えていくべく本学教員も臨床教育能力の向上のFD研修として本講座に再チャレンジしている。本稿では、その成果を各講座担当教員が報告する機会を得た。6講座すべてのまとめがステップとなって、次の歯科技工の発展につながるものと考えている。